

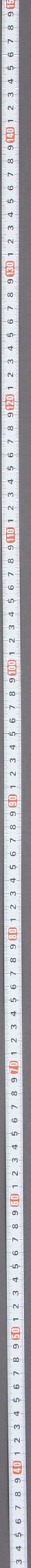
そなたの心は天に抜かざるに
御座りませう。御座りませう
の。御座りませう。御座りませう
白濁のともきは世に徳を大徳大徳
後には。御座りませう。御座りませう
其れは。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう

廿月二十一日の夜は二十一日の夜は
根材の上神補の空に孝や心手
撥入の傍に。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう

御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう
御座りませう。御座りませう。御座りませう



三月二十九日又以て十一夜の月
 根材の上神浦の空に雲をこきりて
 懐入の傍に心ゆくもこのまじりて
 不懐懐者あるは河の真夜中の
 自罹りたる 顔面をよみたる
 目の影居ゆを 男湯 願鬼のき
 骨の比つしや 後傳 終殿
 骨如云





尾崎紅葉書簡(水蔭宛)



特別
文庫14
C79

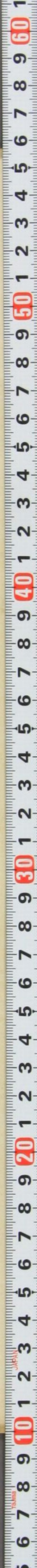


尾崎紅葉書簡(水蔭宛)



特別
文庫14
C79

53 1624





水蔭花
紅葉書簡





のりきり江見の所にてこの祝友をそのお尋ね道び
 照んちりく流のしのみりまはふりまをまをさこ
 のりきりまの文章と美作の下に返めありぬれ申す
 赤河久保

